



学校だより

平成
20
年度
9
月



京都市立桃陽総合支援学校

思い出いっぱい
若狭
「海の家」

本校小・中学部

七月十一日～十二日まで、一泊二日で本校小中学部は「若狭青少年自然の家」へ行ってきました。朝みんないつもより早く集合できました。バスに乗り込み、一路若狭へ、途中、音楽を聞きながらすすみしました。

到着すると「自然の家」の係の人とあいさつ、「自然を全身で体感してほしい」という言葉と、「最近クジラがこの湾で見られた。」との話を聞き驚きました。そしてお昼ごはん、バイキングでお腹を満たしました。午後最初の活動は水泳と魚釣りです。灼熱の太陽の下、熱い砂浜にはだしの足が焼けそうになりました。海に入ると塩味の海水、海へ来たんだなと実感しました。また、えさをつけて竿を垂らすことができた。でも魚は後でそつと海へ返してやりました。

活動を終えて夕食を済ませるとキャンプファイヤーです。みんな燃える火を囲んでゲームや歌そして劇で楽しみました。今日は体をよく動かしたせいか、夜はぐっすり寝ることができました。

次の日、六時起床。それでもみんなきちんと身支度して「朝のつどい」に参加しました。他の学校とも交流をはかり、体操をして体をほぐしました。朝食を終えて最後の活動、水泳・魚釣り・ボートに分かれて楽しみました。

いよいよ若狭の海もお別れです。楽しかった「海の家」、今回の様々な活動を通して自然のすばらしさ、そして、友達との絆が深まったことでしょう。海の香りと夏の思い出いっぱい胸につめて海の家をあとにしました。

琵琶湖博物館

本校小学部

夏休み最後の思い出にと、八月二十二日に琵琶湖博物館に行きました。

朝早く起きて、和知の自宅から参加したお友達もいました。バスの中では久しぶりに出会った友達と楽しい会話が盛り上がっていました。

琵琶湖博物館の中では、子ども達は時計を身に付け、集合時間を守って自由に見学しました。最初は「淡水にすむ生き物」の水族館に入りました。「琵琶湖に住む代表的な魚を見つけよう」というワークシートを持ってしつかり見ました。「琵琶湖大なまずって、これか。」「どこにオオサンショウウオがいるの。」「オー、岩みたいやなあ。」など、感じたこ





とをつぶやきながら見ていました。

次に、デイスカバリールームに入りました。昔のいろりのある家に入ってままごとをしたり、人の骨を組み立てたり、民族衣装を着てみたりなどいろんなことが体験できました。予定の時間があつという間に過ぎてしまうくらいでした。

昼食はレストランでいただきました。九百円以内でジュースも含め好きなメニューを注文し、おいしくいただきました。ここでしかいたできないブラックバスや

大なまずの天井はとてもおいしかったです。博物館からは琵琶湖大橋がきれいに見え、美しい景色にうっとりしました。

子ども達はのびのびと活動し、ゆったりとした時間が持てました。

夏休み 挑戦しました

訪問教育

暑かった夏休みも終わり、涼しい日が続いています。そんな中、病院の中や療養のため自宅で過ごしている訪問教育の子ども達の様子をお伝えします。

《山盛りの宿題をすいすい仕上げたK君》

中三ともなれば、各教科たくさん宿題が前籍校から出ています。習っていないところもあるけれど、訪問の担当が見守る中、K君はどんな仕上げていきました。習字の課題である「情趣」一枚目は、「(おれつて)へたくそ!」と自

分で言っていたのです。一枚・二枚と書くたびにぐんぐん腕を上げ、力強い味わい深い作品になっていきました。「(おれつて)す〜い!」と思っただろうに、そこは謙虚なK君。にっこり笑って「うん」とうなづき、満足気でした。

《たこやきパーティーで力をつけたIさん》

夏休み明けからのがんばるパワーをつけるために、Iさんは、たこやきパーティーを三人の教員としました。一回目は、油のなじんでいないたこやき器のせいか、生地がぐちゃぐちゃになって、「ぞんびみたい」とか「もう丸まってきた」とか「これ、わたしが回す大事なやつ」とかワイワイ言いながら、四十個余りのたこやきを作り上げました。家族にも試食してもらい、「おいしかったー!」と喜んでもらえてにっこり。次につながる力になったようです。

《リユースに挑戦したTさん》

五年生のTさんは、家庭科で学習したことを使って、洋服のリユースに挑戦しました。小さく作ったワンピースの身ごろ部分をカットしてウエストにしました。布が何枚か重なって針を通すのに苦労するところもありましたが、一針一針歪まないように縫っていきました。そして、そこに、幅広ゴムテープを通しました。でき上がったスカートをさっそくはいて、お母さんにも見せました。「いいのができたね」と言ってもらってにっこりするTさんでした。

スライム遊び

二赤分教室

恒例のワイワイ広場で、スライムをすることになりました。そこで三日前に試しに作ってみることにしました。スライムに直接触ることが苦手な小学生は、

ビニル袋の上から感触を確かめていました。それでも繰り返し作ったのは、透明感のある色々な色と作ることの楽しさがあったからのようです。偶然に同室になった知り合いの女の子が一緒だったのも楽しさを倍増させたようです。

次に、スライムが初めての中学生が来ました。不思議そうに初めは見えていましたが、作り始めるともう止まりません。直接手で触ってその感触や動きに夢中になりました。

ワイワイ当日、中学生は退院し小学生は参加できませんでした。参加したのは数人の幼児さんでした。ボランティアの学生さんのお手伝いがあり参加者は存分にスライム遊びを楽しむことができました。遊んでいるときの表情やビニル袋に入れて持ち帰るときの表情は年齢を問わず同じだったのは小さな発見でした。

夏のイベント 京大

京大病院分教室

マリリンバコンサート

七月十六日に「マリリンバコンサート」が行われました。目の前に置かれた大きくて美しいマリリンバを見た子供達は木琴とのスケールの違いに圧倒されていました。

さあ、いよいよお二人のマリリンバ奏者によるコンサートの始まりです。集団指導室に響き渡るマリリンバのクリアーな音色！両手に二本、三本のスケールを持って目にも止まらぬ速さで演奏していかれるお



二人。運動会でよく耳にする「軽騎兵序曲」や、「NHK・今日の料理のテーマ」「ファイナルファンタジーのテーマ」等マリリンバならではの特徴を活かした素晴らしい演奏に、参加者はびっくりにしたり、リズムを取って聞いたりしていました。とても楽しい一時でした。

大成功「ワイワイ広場」



八月一日に、「ワイワイ広場」が開催されました。今年も七月から小中合同で話し合いながら準備を進めてきました。まずは、出したいお店の相談。来る人が楽しめるのはどんなお店なのだろう？？いろいろなアイデアを出していきましました。その中で、結局「トントン相撲」「スパーボールすくい」「魚釣り」「風船釣り」「ボーリング」の五つのコーナーを出店することにになりました。

次に自分が担当していたコーナー毎に集まって、誰がどんな準備をしていくのかを決めました。お店のポスターを描く子、「トントン相撲」用のお相撲さんを折り紙で織る子、魚釣りの絵を描いて切り取りクリップを付ける子、釣り竿を作る子、ペットボトルにカラーペンで絵を描いてボーリングのピンを作る子…。景品のメダルを折り紙で折る子。……みんなが楽しみながら協力して準備を進めました。

平行して、小中合同の合奏曲「君をのせて」練習も進めていきました。なかなか全員そろっての練習はしにくかったのですが、最後はみんな

の気合いとやる気で完成しました。本番ももちろん大成功でした。

よく頑張った・学習のまとめ発表会

七月末に各学年の子ども達が取り組んだ成果を発表しました。

- 一年生：紙芝居「おむすびころりん」
- 三年生：紙芝居「三年峠」
- 四年生：壁新聞「院内学級新聞」
- 六年生：歴史1枚新聞「フランシスコ・ザビエル」



どの学年も自分達が学習した事や持ち味を活かした内容を、分かり

やすく上手に発表しました。聞いていた子ども達の感想も素晴らしいものでした。他学年の取り組みから互いに学ぶ事ができる良い機会でした。

「久しぶりの登校！
良い体調のまま続く
とうれしいな！」

国立分教室

仲間が夏休みに退院で、中学部一人になりました。

八月二十五日(月)の朝大きな声をあげて気分が良いのでしようかはりきって笑顔いっぱい登校してきました。体調も比較的良いのでしよう。とてもうれしいことです。同じ部屋には、夏休みで入院してきた子どもも「あつと」いう間に退院でしたが、保母さんとかかわってもらいご機嫌だったと思われまます。

夏休み中も受診して

きた仲間も時々気にしてくることもありましたが、何と言っても「家族大好き!」、「お母さんめっちゃ好き!」と言ってくれるNくんです。

退院した男子三人が、願いを聞いてくれりコーナーで「イエスタデイワンスモア」を録画していたのを見たり聴かせたりしました。一生懸命な姿に練習している場面が自然に「めっちゃ上手」といつてくれたことがあります。

体調が少しでも良い事を願っています。きつと、Nくんが、頑張っている姿があれば、きつと他の仲間も頑張ってくれることでしょう。Nくんファイト!!!

夏のイベント 府医大

府立医大分教室

照りつける太陽と突然やってくる雷と雨。そんな夏も、色々な思い出を残して過ぎ去ろうとしています。

夏休みの間に退院する子どもたちが何人かいました。寂しくなりましたが、また気持ちを新たに、学習や行事に取り組んでいきたいと思えます。

夏休みの二大イベントといえは「ワイワイ広場」と「映画会」でした。

ワイワイ広場のオープニングでは、小学部がリーダーやキーボードを使って「ドレミの歌」「ミッキーマウスマーチ」「オラリリ」「さよなら」の四曲を演奏しました。ボランティアの学生さんや保護者の方にも演奏に参加してもらいました。心が一つになったように思いました。

各コーナーでは、「ボーリング」「金魚すくい」「ストラックアウト」「魚釣り」を楽しみました。子どもたちの手でボーリングのピンや魚を作りました。

エンディングではビンゴゲームをしました。リーダーになつていてもなかなかビンゴにならず、はらはらドキドキの展開でしたが、その分みんな最



後まで楽しむことができました。

午後からは、ベッドサイドをまわり、金魚すくいとビンゴゲームをしました。ここでは、金魚すくいが一番盛り上がりました。保護者の方も一緒に、みんなが童心にかえって無心に金魚をすくい、楽しい一時を過ごすことができました。

映画会は府立医大図書館ホールで行いました。スクリーンが大きくてまるで映画館にいるようでした。仲間とともに感動を共有しながら見る映画は、特別の意味がありました。

これから、前期の学習のまとめをしつかりし、十月四日の学習発表会に向けて取り組んでいきたいと思えます。

階段の踊り場

学校長 尾崎 泰敏

夏休みが終わり、八月二十五日から学習が始まりました。夏休みの間の出来事としてはオリンピックがあり、テレビ

に釘付けの人もいたのではないのでしょうか。日本人選手の活躍に感動もしましたが、多くの世界記録の誕生にも感動を覚えました。一方アテネオリンピックから四十四年間練習や準備を進め、オリンピック出場を決めながら直前になってけがや体調不良によって競技をあきらめなければならぬ選手が目についたのも今大会でした。それらの選手たちが今回の不運をどのようにとらえ、今後活動していくのか見守っていこうと思っています。きつと今回のピンチをチャンスに変えて一ランクアップした姿を見せてくれることを期待しています。

夏休みの始まる前と終わりの朝会で「階段の踊り場」の話をしました。学校の長期休みは、「階段の踊り場」のようなものだということです。階段の踊り場は下を見ると自分が上ってきた後を振り返ることが出来ます。上を見れば次の階までの階段数がだいたい分かります。昇るのは疲れたので一休みして昇るエネルギーためることも出来ます。子どもたちにとってこの夏休みが後期に向けてのよい踊り場になってくれたらと思っています。さて、人生にも数えられないほどの踊り場があります。北京オリンピックで競技にけがのため出られなかった選手達にとって、今回のオリンピックは選手活動の踊り場の時期だったのかもしれないね。